

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 1丁目)

事業所番号	0670700624		
法人名	株式会社コンパス		
事業所名	グループホームコスモス		
所在地	山形県鶴岡市茅原西茅原112-6		
自己評価作成日	平成22年 1月18日	開設年月日	平成15年 5月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族との絆を大切にと思えたのが里帰り支援です。可能な限り気の合う利用者と一緒に自宅をたずね、楽しく懐かしい時間を過ごしています。又、本人らしさを保ちながら生き生きと本人のペースに合わせのびのびと生活していける様に常に考えながら支援していきたいと考えております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成 22 年 2 月 15 日	評価結果決定日	平成 22 年 2 月 25 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族の協力も得ながら「里帰り支援」として利用者が自宅に帰ったり、地元老人クラブとの交流会にも定期的に年数回参加したりしており、家族や地域とのつながりを大切にしながら、利用者一人ひとりの個性や生活を大切に支援が行われています。
また、「入職時には必要な資料を全て簿冊に綴じて職員一人ひとりに説明・配布し、いつでも再確認ができるようにしていること」「一つひとつの記録を細かく簿冊に分けて整理し、職員誰もが見やすいように工夫していること」「各種の記録や資料に、職員全員が目を通したことが確認できるようにしていること」など、職員全員で自らのレベルアップを目指しながら、更なるサービスの質の向上にも取り組んでいるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットの入口、事務所に掲げ、理念を日々のケアに反映し取り組んでいる。	地域密着型としての理念を作成するとともに、経営理念、行動指針も作成しており、全体会議時等に職員と確認しながら実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会加入や地域のボランティアの受け入れをしている。地域の人々との交流が持てるように公民館利用や、ホームに定期的に来てもらったり、気軽に立ち寄ってもらえるようにしている。	町内会に加入しており、地域の懐メロや紙芝居等のボランティアを毎月受け入れる、地元老人クラブの交流会に年数回参加する、地域の敬老会に参加するなど、地域との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特にしていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、運営推進会議が行われており、ホームでの利用状況やサービス評価の内容を報告し話し合いをしている。書面に残して全体会議で報告し、話し合い検討している。	市の担当者、民生委員、家族、利用者等に参加してもらい、2ヶ月ごとに運営推進会議を開催しており、利用者の生活状況や行事、防災、ヒヤリハット事例の話や事故報告等を行い、会議内容を全職員で確認している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の受け入れをしサービスの質の向上のためにも客観的な視点で助言をいただいている。	利用者の受け入れ等について市の担当者から相談を受ける場合もあり、その都度、市の担当者と相談しながら、連携を図って対応するようにしている。また、介護相談員の受け入れも行われている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	全体会議でとりあげ研修を行っている。利用者の状態を考慮し午前午後2回、玄関の鍵をかけないようにしている。また身体拘束もやむを得ない状態の際には家族の合意を得た上で行うこととしている。	毎年、身体拘束についての内部研修を行い、職員が身体拘束について正しく理解できるように努めている。また、やむを得ない場合には市職員とも相談し、家族の合意を得た上で必要最小限にとどめるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議で議題としてとりあげ研修を行っている。身体拘束等の排除マニュアルを作成し、質の向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市主催の研修に参加し学習している。機会があるごとに職員への説明を行っている。必要な利用者へは随時支援に結び付けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している。利用料金重度化についての対応、ケアに関する考え方や取り組み、利用者の状態の変化により契約解除について等、十分な説明をし不安や疑問を引き出して納得を得た上で手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員を月2回派遣してもらい入居者の立場にたった意見をいただき改善に取り組んでいる。入居者の言葉や態度からその思いを察する努力をしている。	利用者全員の意向調査を年2回実施しており、職員の全体会議と運営会議で報告・検討されている。また、玄関への意見箱の設置、運営会議や面会時の会話から要望等を把握する取り組みも行われている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回フロア会議、全体会議にて意見交換している。臨時で問題ある時はその時に会議を開催し検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得への支援を行っている。現場に頻繁にいき職員の努力や職場環境等を把握するよう努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へ参加できるよう計画している。研修報告は全体会議で発表してもらい報告書を閲覧できるようにしている。新人職員へは採用時の研修を実施している。	内部研修は職員から希望とり、計画を立てて実施している。また、外部研修へも年間1人1回は参加できるように努めており、全体会議で研修内容を発表すること、報告書に全職員が目を通すこと等が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県グループホーム連絡協議会の交換研修に参加しており、ケアの方法や接遇について学び、自らのサービスの質の向上につなげている。	県グループホーム連絡協議会に参加しており、ネットワークを広げて情報交換すること、交換研修に参加してサービスについて学ぶこと等、同業者との交流を通じて質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態や本人の思いを把握するよう努め不安を和らげるためにもグループホームの見学をしていただいています。又、家族の思いを受けとめ安心してもらうよう話を良く聞く事を大切にしています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、求めている事等を、これまでの経緯についてゆっくり聞くようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の実情や思いを把握し、改善に向けた支援を提案したり、必要に応じて他のサービスの紹介をしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であり、料理等昔からの知恵を聞きながら楽しく行っている。昔からの季節の行事や風習等の話を聞きながら過ごしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者とのつながりを深めていけるように、家族が関わられるよう行事や食事会、外出等を勧め、よりよい関係を継続出来るよう努めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を巻き込み、行きつけの美容院を利用し馴染みの関係を続けている。又、数名ではあるが、1年1回墓参りを続けており、尊重していきたい。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格、相性を把握し関係性について情報を共有し、職員が調整役となって支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にいつでも相談を受け付ける旨を説明している。入院した場合は職員がお見舞いに行ったりしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や本人の暮らし方等を本人や家族に聞き、日々の生活に取り入れている。また、本人との関わりの中で、表情や言葉の中で真意を推し測って思いをそれとなく確認している。	利用開始前の本人や家族からの聞き取り、利用開始後の利用者との話し合いなどから、希望や意向を把握している。また、困難な場合には家族の話や利用者の表情から汲み取り、本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつ、自宅に訪問したりして本人や家族に聞くようにしている。面会時、折りに触れ価値観や情報等を聞きケアに活かすようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの暮らし方や生活リズムを把握し、出来る力、わかる力を見極めて全体像をつかんでいる。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるように、利用者や家族から思いや意見を聞き、アセスメントも含めて月に1回のケース会議の時に、気付きや意見を出し合いその人らしい介護計画を作成している。	毎月のユニット会議で状況を確認し、利用者や家族の意見も踏まえながら、3ヶ月毎に評価を行って介護計画を作成している。また、状態に変化があれば、予定時期前に検討と見直しを行い、状況に合わせた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量、水分量、排泄、生活動作を支える為の軽体操等の身体的状況及び日々の暮らしの様子等を記録している。申し送りを行い統一したケアの方法、情報を共有している。申し送りノートを活用し勤務前に確認する様義務づけている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議への参加、ボランティア等の受け入れなどを行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、ホームかかりつけ医に変更してもらったり、変更ない時は家族対応で行っている。	協力医療機関へは職員の送迎、付添で受診している。また、それ以外のかかりつけ医には、家族かホームの看護師が付添って受診し、利用者の状況を書面で伝える等の工夫も行われている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体等の異常に気付いた時、看護師へ報告し、指示を受けたり対応してもらっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中等、医師の説明がある時、家族と一緒に話を聞いている。退院後は、かかりつけ医と話し合い対応している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明している。同時に他施設への申し込みをお願いしている。	重度化対応指針を作成しており、利用開始時には「ホームでできること」について、家族への説明や話し合いを行い、また、同意書も交わすようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、心肺蘇生、救急法を受講し応急手当を行えるよう対応している。夜勤時の緊急対応についてマニュアルを作成し周知している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回、定期的に自主訓練を行っている。避難場所の確認、地区の協力も得られるよう依頼している。	防災訓練は春と秋の年2回、消防署や民生委員、地域の方の参加により行っている。また、奇数月には職員による自主訓練として、夜間の災害発生を想定した訓練も行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の誇りを尊重し、プライバシーを損ねるような言葉かけはしないよう、折りに触れ全体会議等で話を意識づけている。	全体会議で接遇や言葉遣いの研修を行ったり、気付いたことは職員が互いに注意しあっている。また、特に配慮が必要な利用者については、「対応のポイントや留意点」を記入した用紙を作成し、職員間での共有化を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合せて声をかけ些細なことでも本人が決められるような場面をつくっている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に配慮し、本人の気持ちを尊重し、できるだけ、個別性のある対応に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは本人の意向で決めているが、見守りや支援を必要時行っています。馴染みの理美容院へは本人の希望に沿ってカットや毛染めをしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきや胡麻すり等簡単な下準備、食後の皿拭き等、見守りや支えがあれば力が発揮できることを手伝っていただき、利用者と職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事できる雰囲気づくりを大切にしている。利用者の希望で外食もしている。	畑での野菜作りや収穫、皮むきや胡麻すり、後片付けやテーブル拭きなど、利用者ができることは職員と共に行い、利用者と職員と一緒に食事をするようにしている。また、回転寿司などの外食にも出かけて食事を楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分量をチェック表に記入し、把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけをし、義歯の洗浄を行い、見守りや個別に働きかけている。夜間は洗浄液に入れ清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に基づき、トイレ誘導しトイレにて排泄している。	「24時間排泄チェック表」と「1ヶ月チェック表」を併用し、状況を細かく確認した支援が行われている。また、日中のトイレでの排泄(全員)、夜間のポータブルトイレ使用など、状態や時間帯等に合わせた支援を組み合わせている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の体質の方には、起床時冷水を摂取して頂き、全員毎朝食にヨーグルトの提供、ホール内の運動をして頂き、便秘予防対策に気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の体調を観察し、毎日入浴する方もいる一方、週に2回ペースで入浴している方もいて、それなりの対応をして無理強いしないようにしている。	入浴が楽しめるように利用者の希望が尊重されており、「毎日の入浴」や「入浴しなかった日の足浴」など、一人ひとりに合わせた支援に取り組んでいる。また、近隣の温泉地の足湯に車で出かけることも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後の昼寝や、夜間眠れないような時は水分補給や傾聴を行い対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示のもと、効用、副作用を確認し、確実な与薬の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者にあわせて食器拭き、おぼん拭き、洗濯物干し等のできる事をお願いしている。また、切り干し大根作りや、しそ巻き作り等利用者と一緒にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い日には外へ出て日光浴をしたり、散歩をしたりしている。また、季節を感じてもらう為にも花見や紅葉狩りドライブ等を楽しんでいる。	天気が良いときはホームの近くを散歩したり、買い物やドライブに出かけており、家族の協力も得ながら、年に数回「里帰り支援」で法事に参加したり、自宅に帰ったりもしている。また、個別対応として、利用者の希望に応じて、職員と一緒に海や山に出かけるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は金庫に保管させて頂いている。なかにはご家族の協力のもと、小額のお金を持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者より電話をしたいと言われた時は家族に電話できるよう支援し、暑中見舞いや年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールと居室の温度差をなくす為に居室の戸を開け、プライバシーの面にも配慮し、のれんをかけている。季節感を取り入れる為に壁にはクリスマス等の飾りを季節ごと装飾している。	天井が高く、ゆったりとした広いホールがあり、中央には壺庭のような地植えの植物も植えられ、安らげるようにしている。また、ホールの壁には行事の写真や季節の飾り物が掛けられ、楽しく居心地よく利用者が過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファを各箇所を設置しており、自由に座って過ごせるスペースがある。独りで過ごしたい方は、テレビ、読書等を楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時自宅で使用していたダンス、鏡台、オルガン、テレビ、アルバムなど持ち込んでいる。利用者の状況に合わせてフローリングの床に畳やカーペットを敷いて居心地良い居室になっている。	居室には使い慣れた箆笥や鏡台、テレビやオルガン、位牌や写真等を持ち込まれ、また、利用者の状況に合わせ、ベッドではなく畳に布団を使用している人もおり、好みに合わせて過ごしやすい居室となるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名前を明示し、トイレ、浴室等の場所がわかる様に明示し、混乱しないように努めている。ホームはすべて手すりがありバリアフリーになっている。		